

コロナウイルス
手指衛生の効果

「アルコール」「次亜塩素酸水」「オゾン水」

同等レベルで不活化

手指衛生で使うアルコール(70%エタノール)、38ppm次亜塩素酸水、3〜10ppmオゾン水は、いずれも新型コロナウイルス感染症の原因ウイルス(SARS-CoV-2)に対して同等の不活化効果がある。日本歯科医学会の令和2年プロシエクト研究(代表・王宝禮大阪歯科大学教授・日本歯科薬物療法学会常任理事)によるもの。

研究では、不活化効果をする」と説明。

抗微生物学のおよび分子生物学的に実験。高濃度タンパク質が混在した環境下でも、全てに同等レベルの不活化効果を確認した。

メカニズムについて王教授は、「エンベロープを破壊するエタノールよりも、Sタンパク質とゲノムRNAを破壊する次亜塩素酸水とオゾン水の方が強い殺ウイルス力があると思われる

と、手指衛生や環境衛生に有効な消毒剤のガイドライン的な大発見で、医療機関や日常生活でアルコールの次に次亜塩素酸水やオゾン水が選択されるエビデンスに発展する可能性があるという。

医師で医療ガバナンス研究所の上昌広理事長によると、手指衛生や環境衛生に有効な消毒剤のガイドライン的な大発見で、医療機関や日常生活でアルコールの次に次亜塩素酸水やオゾン水が選択されるエビデンスに発展する可能性があるという。

同研究成果は『medicallife』(9月7日)に掲載された。